

成果報告書

2024年 4月 16日

公益財団法人 乃村文化財団 理事長 渡辺 勝 様

貴財団の助成金事業についてご報告します。

助成区分	研究助成	
研究および教育普及活動の期間	2023年 4月 ~ 2024年 3月	
フリガナ		
大学(研究室等)名 学会・博物館名	早稲田大学創造理工学部建築学科 渡邊大志研究室	
フリガナ	ワタナベタイシ	職名
代表者名	渡邊 大志	准教授/建築家
フリガナ	ヨシダノヒ	職名
担当者名	吉田希	渡邊大志研究室 修士1年
所在地	東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学55号館N棟805号室	
対象となる研究および教育普及活動の概要	【テーマ】	クロスオーバー・アーキテクチャ研究—多機能な「曖昧な立体(部品)」の開発・生産・流通による空間的实践—
	【目的】	本研究の目的は、都市を部品の集合として捉え、プロダクトスケールのオブジェクトが建築や都市、人々の生活に対して、スケールや境界を超えて直接コミットしていくことを目指します。そのためのオブジェクトとなる部品群(曖昧な立体)を開発し、またその生産・流通網を独自に展開していくことで、新たな建築空間を構築していきます。本研究の実践として、展示計画、展示方法の提案と共に、デザインレビューとして展覧会を開催し、社会的効果や実践結果を振り返り、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の理論を検証します。
	【実施体制】	2020年度より本研究室内に設置されたデザイン編集部を中心とし、研究構想やプロダクトの提案・製作を行っています。デザインの企画には新規の学生を取り入れ、製作協力者として、島倉淳氏(陶磁器職人)、(株)富士産業(金属加工職人)、(株)麻布成形(鋼材加工職人)などの多くの職人の方と協力しています。建築以外の技術を用いた、建築に関わる多様な機能を持つ部品を開発していきます。展覧会開催時にヴェレナ・フォン・ベックラス氏(ワイマール大学)をお招きし、国境を超えた交流を実践します。
	【実施方法】	本研究は、①理論化、②試作、③実験の3段階に加え、④デザインレビューとしての展覧会を通して、一連を統括するように構成されます。展覧会に向けて多くの新商品を開発し、同時に展示什器の開発や、実施場所の検討、展示空間の企画を行います。展覧会では、建築家ヴェレナ・フォン・ベックラス氏(ワイマール大学)をお招きし、ドイツの暮らしとデザイン、様々なスケールや分野を横断したもののづくりについてご講演していただきます。開発した部品のアッセンブルや国を超えた交流といった空間実践を通し、検証を行います。
	【成果と社会的効果】	展覧会を通して実践された「曖昧な立体(部品)」の開発や、部品を用いた空間構成は、新たな流通体系や空間・展示のあり方を生み、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の一連の実践の結果が社会に広く提示された結果となりました。建築と工業化の関係やその他の社会的容容に対して、柔軟に対応することができる、実践的な取り組み、空間構成、建築空間を構成するシステムの構築の一步となりました。多くの協力者や、国境を超えた繋がりは、人口減少時代やポストコロナに対する新たな生活様式となります。
共同研究者等の有無	なし・ 6 人数 13名 2023年度助成金事業申請時の共同研究者 ・加藤彩那(2023年度卒業)・松尾太郎(2023年度卒業)・李昺(修士修士2年) 2023年度6月から参加の共同研究者 ・山崎立智(修士2年)・KUAI, gexun(ノラン)(2023年度卒業)・増井健一(修士2年)・吉田希(修士1年)・KWON Jaehyun(ゴン)(修士1年)・正岡彪翔(修士1年)・増山朋華(修士1年) 2023年度3月から参加の共同研究者 ・武野ゆず(学部4年)・高嶋翔宇(学部4年)・市原優希(学部4年) 2023年度の助成金申請時に申請致しました共同研究者に加えて、2023年度6月と2023年度3月から、以上の共同研究者を増やしております。新プロダクトの開発や、Xover Products展の準備のため、同研究室内で協力者として共同研究者を増やしました。	
助成金額	50万円	主な使途 展覧会開催費(会場費・ディスプレイ費・広告費)

研究室名 学会・博物館名	早稲田大学創造理工学部建築学科 渡邊大志研究室
テーマ	クロスオーバー・アーキテクチャ研究—多機能な「曖昧な立体（部品）」の開発・生産・流通による空間的实践—
<p>【目的】</p> <p>本研究の目的は、都市を部品の集合として捉え、プロダクトスケールのオブジェクトが建築や都市、人々の生活に対して、スケールや境界を超えて直接コミットしていくことを目指します。そのためのオブジェクトとなる部品群（曖昧な立体）を開発します。「曖昧な立体（部品）」とは、使う人は使い方を考えることができるような立体であり、これが部品として展開することで、新たな空間を構成します。「曖昧な立体（部品）」は、職人の方の協力を得て完成し、技術を横断したものづくりを目指します。完成した部品の新たな流通様式を考え、建築空間として実践することが、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の実践に繋がります。生産流通体系、市場（マーケット）のあり方から建築と工業化の関係の在り方について、建築躯体ではなく、部品の集積による空間構成の可能性を示します。本研究の実践として、展示計画、展示方法の提案と共に、デザインレビューとして展覧会を開催し、社会的効果や実践結果を振り返り、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の理論を検証します。こうした部品群を展示する空間ディスプレイとその部品群で構成した展覧会、さらには頒布会・ワークショップを実施することで、ユーザーに曖昧な立体で構築された空間を実際に体験してもらい、「クロスオーバー・プロダクト」の効果をより一層、検証します。レビューにより、次期の活動に効果をもたらします。</p>	
<p>【実施体制】</p> <p>2020年度より本研究室内に設置されたクロスオーバー・デザイン編集局を中心とし、学生主体で研究構想やプロダクトの提案・製作を行っています。デザインの企画には新規の学生を取り入れています。建築以外の技術を用いた建築に関わる多機能部品を開発することを1つの条件としているため、様々な分野の職人と協同する必要があります。製作協力者として、島倉淳氏（陶磁器職人）、(株)富士産業（金属加工職人）、(株)麻布成形（鋼材加工職人）などの多くの職人の方と共同しています。建築以外の技術や、職人の方々の分野を超えた技術を用いた、建築に関わる多様な機能を持つ部品を開発し、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の理念を実践します。定期的な展覧会の開催を目標とし、編集局が中心となって企画し、新規デザインの製作や、社会の中で「クロスオーバー・アーキテクチャ」がどのように位置付けられるのかについての検証を行います。展覧会開催時にヴェレナ・フォン・ベッケラス氏（ワイマール大学）をお招きし、国境を超えた交流を実践し、さらなる「クロスオーバー・アーキテクチャ」の可能性を探ります。今年度の「クロスオーバー・プロダクト」展覧会のフィードバックを基に、改めて「クロスオーバー・プロダクト」の効果を見直します。さらに来年度では展覧会に加え、頒布会やワークショップなど、ユーザーが能動的な立場になることができる空間ディスプレイを目指し、ユーザー視点からの効果の検証をより一層充実させます。</p>	
<p>【実施方法】</p> <p>本研究は、①理論化、②試作、③実験の3段階に加え、④デザインレビューとしての展覧会を通して、研究活動の一連を統括するように構成されます。④デザインレビューとしての展覧会では、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の理念を、開催地選定、展覧会企画運営、展覧会構成、空間構成の企画を通して、より実践的に達成することができます。展覧会に向けて多くの新商品を開発し、同時に展示什器の開発を行うことで、新たな空間構成や展示空間のあり方を提示することができます。展覧会では、建築家ヴェレナ・フォン・ベッケラス氏（ワイマール大学）をお招きし、ドイツの暮らしとデザイン、様々なスケールや分野を横断したものづくりについてご講演していただきます。開発した部品のアッセンブルによる空間の提示や国を超えた交流といった空間実践を通し「クロスオーバー・アーキテクチャ」の社会的位置付けを検証します。</p>	

研究室名 学会・博物館名	早稲田大学創造理工学部建築学科 渡邊大志研究室
テーマ	クロスオーバー・アーキテクチャ研究－多機能な「曖昧な立体（部品）」の開発・生産・流通による空間的实践－

【研究・教育普及活動の成果】

複数の「曖昧な立体（部品）」のプロダクト化、それらの部品のアッセンブルによる空間的な実践を行うことで、研究室内に留まらない社会的普及の場を提供することになります。展覧会を通して実践された「曖昧な立体（部品）」の開発や、部品を用いた空間構成は、新たな流通体系や空間・展示のあり方を生み、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の一連の実践の結果が社会に広く提示された結果となりました。建築と工業化の関係やその他の社会的変容に対して、柔軟に対応することができる、実践的な取り組み、空間構成、建築空間を構成するシステムの構築の一步となりました。展覧会什器をオリジナルデザインし、「曖昧な立体（部品）」と関連づけることで、新たな空間構成を提示することができました。多くの職人の方々をはじめとする協力者や、国境を超えた繋がりを「曖昧な立体（部品）」で構成された空間の中で生み出すことは、人口減少時代やポストコロナに対する新たな生活様式を提示することに繋がります。



研究室名 学会・博物館名	早稲田大学創造理工学部建築学科 渡邊大志研究室
テーマ	クロスオーバー・アーキテクチャ研究－多機能な「曖昧な立体（部品）」の開発・生産・流通による空間的实践－

【今後の成果の活用と活動の展開について】

今回の研究活動にて、開催した展覧会において、「曖昧な立体（部品）」に対するデザインレビューと、新たな流通体系によるレビューを得ることができました。

デザインレビューに関しては、社会の中で部品がどのように見られ、関心を寄せられているのかについて確認することができ、今後の「曖昧な立体（部品）」の開発の手助けになります。新たな流通体系については、デザイン企画、生産体系の確立、展覧会の開催という社会的な活動の企画運営、全てにおいて建築的な実践が伴い、分野や境界を横断した活動を行うことができました今後の展覧会の開催において、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の理念をより実現することのできる企画に繋げることができることや、流通体系や生産体系を広がりから、さらに広範囲に「クロスオーバー・アーキテクチャ」の活動が広がることを意味します。展覧会の中での什器や展示空間、空間構成の提案にとどまらず、建築の中で利用するシチュエーションを企画するなど、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の建築的な広がりを目指します。また、現在開発されている「曖昧な立体（部品）」同士の横断や、協力者である職人の方々同士の横断によって新たな部品を考えるなど、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の理念をより建築的に実現していき、1つの運動となれるよう取り組んでいきます。

曖昧な立体(部品)としての、

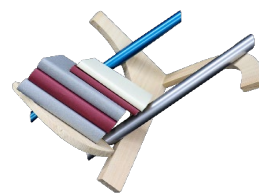


プロダクトの横

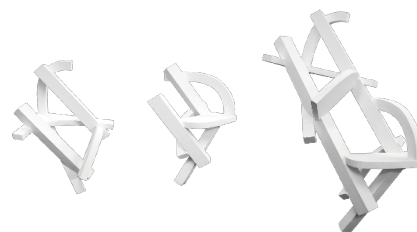


2023年度開発プロダクト

機能の横断



部品への展



空間への応

